

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

台東区立御徒町台東中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	・漢字を書くこと。 ・言葉の特徴や使い方に関すること。 ・文法・語句に関すること。	・自分の考えを分かりやすく表現し、伝える力 ・自分の考えが伝わるように書く力 ・土台となる確かな力	・基本的な漢字の読み書きの学習を充実させる。また、語句を適切に使うため、短文作成で力をつける。 ・根拠を明確にして話したり書いたりする。 ・小テストなどで基礎の徹底を図る。
第2学年	・文法・語句に関すること ・文章を書くこと ・漢字を書くこと	・言葉の単位を正しく理解する力 ・読み手の立場に立って、分奏を整える力 ・表現語彙を広げ、表現する語彙力 ・自分の考えを明確にして書く力 ・文章の内容を正確に読む力	・文法事項を活用し、文章を読み取る。 ・学んだ語句を文章の中で、活用させる。 ・意見文などで主張・根拠を紐づけて書く指導を行う。 ・自他の意見を交流させて相違点をまとめさせる。
第3学年	・漢字を正しく書くこと。 ・根拠を明確にして、自分の考えを書いたり、話したりすること。 ・説明的な文章の内容を読みとること。	・必要な場面で正しく漢字を使える力 ・グループ活動におけるコミュニケーション力 ・体験や事実に基づいて根拠を明確にして、相手に伝える力 ・文章を正確に読み取り、段落の役割や段落の相互関係を読み取る力	・漢字テストの実施。 ・グループ活動においての意見交換を多く設定し、学びを深める機会を増やす。 ・意見文などで主張・根拠を紐づけて書く指導を行う。 ・説明文の読解で、段落の意味を考えさせながら内容を読み取る指導を行う。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

台東区立御徒町台東中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	・特定の人物や時代についての知識としての定着。 ・歴史的事象について資料をもとに考察し表現すること。	・既習した学習内容を復習する習慣。 ・資料から読み取れる内容を多面的多角的に精査し表現する力。	・授業中に既習事項を振り返る場を多く設け確認していく。 ・グラフの種類や資料内容に応じた読み取るポイントを繰り返し指導する。
第2学年	・複数の資料を読み取って1つの解答を導き出すこと。 ・自分の考えを、資料をもとに説明すること。 ・既習した学習内容が定着していない生徒が多い。	・資料から読み取れる内容を多角的・多面的に精査し、表現する力。 ・既習した学習内容を復習する習慣。	・グラフの種類や資料内容に応じた、読み取る視点を繰り返し指導する。 ・授業内に振り返りの時間を設け、既習した学習内容を復習する機会を増やす。
第3学年	・既習した学習内容の知識としての定着。 ・歴史的事象について資料をもとに考察し表現すること。 ・交通や産業について複数の資料をもとに判断すること。	・1，2年時の学習内容を復習する習慣。 ・資料から読み取れる内容を多面的多角的に精査し表現する力。 ・立地条件や自然環境、生活の変化などを踏まえた上での資料を読み取る力。	・授業中に既習事項を振り返る場を多く設け確認していく。 ・グラフの種類や資料内容に応じた読み取るポイントを繰り返し指導する。 ・時代による生活の変化や自然環境などを意識した発問を工夫する。

令和7年度 数学科 授業改善推進プラン

台東区立御徒町台東中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	・ 小数や分数の計算をすること。 ・ 単位量当たりの大きさを考えて身の回りの事象を理解すること。 ・ 比の式について理解すること。 ・ 目的に沿ったグラフを選ぶこと。 ・ 選び方が何通りあるか求めること。 ・ ドットプロットから、代表値を読み取ること。	・ 数の範囲を拡張し、計算する力。 ・ 身の回りの事象を適切な方法で解決する力。 ・ グラフやドットプロットなどのデータを読み取り、適切に判断し表現する力。 ・ 自分で問題を見つけ、仲間と共有しながら学びを深めようとする姿勢。 ・ 問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり、多面的に捉え考えようとしたりする態度。	・ 買い物、運動、調査活動などの生活に密着した事例を取り上げ、計算や比の考えを活用させる。 ・ 既習事項を振り返り、問題を見だし、問題解決し、その解決過程を振り返るという一連の数学的活動の充実を図る授業づくりをしていく。 ・ 解決過程で、小グループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えをまとめられるようにする。
第2学年	・ 絶対値について理解すること。（正負の数） ・ 与えられた事象について、比例の関係を利用して求めることがわかり、そのために必要な数量を見つけること。（比例・反比例） ・ 比例の関係における $x \cdot y$ の値から、比例の式に表すこと。（比例・反比例） ・ 円錐の側面になるおうぎ形の中心角の大きさを求めること。（空間図形）	・ 数学的用語の意味や使い方を理解し、用語を用いて論理的に説明する力。 ・ 比例関係の特徴を理解し、グラフや式で表現する力。 ・ 図形の公式を理解し、平面図形と空間図形を関連付けて考える力。	・ 数学的用語を使って、説明する活動を増やしていく。 ・ 複数の表現形式（表・式・グラフ・意味）を用いて、関連付けられるようにする。 ・ 実際に円錐の模型を切って展開図を作ったり、実生活の事例（アイスクリームコーンの側面を広げるなど）から授業を展開したりする。数値を変えて繰り返し練習する。
第3学年	・ 素数の意味を理解すること。（正負の数） ・ 変化の割合の関係から x の増加量に対する y の増加量を求めること。（1次関数） ・ 式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること。（多項式） ・ 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合についてや、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること。（三角形と四角形）	・ 数学的用語の意味や使い方を理解し、用語を用いて説明する力。 ・ 与えられた情報を読み、証明した事柄の結論を的確に把握し、論理的に説明すること。 ・ 数学の事象から問題を発見し、図形の性質を見出し統合的、発展的に考察すること。	・ 数学的用語を使って、説明する活動を増やす。 ・ 数学的に表現したことを事象に即して解釈し問題解決の方法を数学的に説明する機会を多く設定する。 ・ 一旦解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の条件や仮定を見直したり、共通する性質を見出したりして、統合的・発展的に考察ができるようにする。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

台東区立御徒町台東中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	・授業内容に興味をもち、積極的に発言し、問題に主体的に取り組むこと。 ・計算や思考問題を苦手とする生徒が多い。	・理科に興味・関心をもち、主体的に学んだり、考えたりする力。 ・基礎的な内容を身に付けたうえで、それを科学的に表現する力。 ・グラフや図を適切に読み取る力。	・身近な事例を取り上げることで、理科を身近に感じてもらい、興味・関心を深める。 ・計算問題や思考問題を授業に取り入れる。 ・実験をできるだけ取り入れ、経験として学ぶ機会をつくる。 ・グループワークや発問の機会を増やし、自分の考えを表現するのに慣れさせる。
第2学年	・単元内容と日常生活の繋がりに興味・関心を持ち、レポートなどの調べ学習に生かすことができる。 ・授業中、積極的に発言や発表ができる生徒が多い。 ・計算問題の進捗状況に差がみられる。	・学習内容を活かし、自分の思いや考えを文章や発表などを用いて、科学的に表現する力。 ・他者との話し合いの中で、適切に情報を聞き取る、まとめられる力。 ・単元における基本的内容・知識を振り返る力。	・生徒が興味・関心を引くような事例を提示し、生活場面や実体験を踏まえて思考する場面を増やす。 ・グループワークを増やし、自身の考えを伝え、表現し、発表する機会を作る。 ・授業の冒頭で小テストを行い、知識の確認・定着を図る。
第3学年	・毎授業や各単元の導入から、自分の考えや予想を示すことができる。発言する生徒も多く、クラス全体の理解度も高い。 ・結果を図でまとめることができるが、言葉でまとめることが苦手な生徒が多い。	・物事について科学的に考え、自分の力で表現・判断する力。 ・データや図を読み取り、要点をまとめて科学的文章で説明する力。	・学習内容が生活に応用されている例を挙げ、授業への関心をさらに高める。 ・物事を科学的な思考に捉えられるよう、授業を段階的に構成し、要点をまとめていくことで、根拠のある科学的文章力を養う。

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

台東区立御徒町台東中学校

	生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
第1学年	・日常会話の聞き取りには慣れている。間違いを恐れずに積極的に伝えようとする姿勢をもち続ける必要がある。 ・英語の語順を理解して、文を聞いたり書いたりする必要がある。	・日常会話を正確に聞き取る力 ・伝えたい内容を英語で正しく書く力 ・既習事項を用い正確に話す力 ・英語の語順を理解して表現する力	・授業内で既習事項を繰り返し使うことで、「読む・聞く・話す・書く」の力を高める。また、必要に応じて文の構造や語順を説明し、意識できるようにする。 ・文法だけではなく、実際に英語を使い、話したり書いたりしながら理解を深めていくような指導を実践する。
第2学年	・対話文を聞いて自分の考えを書く問題では、目標値を8%下回った。また、無回答の生徒は28%いた。聞くことと書くことを融合させた問題に慣れる必要がある。 ・3文以上の英作文よりも、情報に基づいて書く英作文や場面に応じて書くこと。	・必要な情報を読み取り、内容を理解する力 ・場面に応じて英作文を書く力 ・情報に基づいて英作文を書く力	・定期考査以外にも、教科書以外の英文に触れる機会を増やし、読解力を身に付ける。 ・場面や情報を提示し、条件に応じて作文を書かせる時間を設け、振り返りを行う。
第3学年	・テーマに沿って3文以上で書く英作文はかけている生徒は多かったが、対話の流れに合った英文を書くこと。	・1、2年生で学んだ内容の文法の定着。 ・既習事項を使って英語を話す・書く力。 ・場面を正確に読み取り、文脈に合う英文で表現する力。	・定期考査以外にも、教科書以外の英文に触れる機会を増やし、読解力を身に付ける。 ・場面や情報を提示し、条件に応じて作文を書かせる時間を設け、振り返りを行う。